

■■持ち物と体力の微妙な関係■■

現在のところ、コミケットの参加者は早朝からの待機組と午前中に逐次会場に到着する組と、一般入場フリーのタイミングでゆっくり来場する組に概ねバランスよく別れているようだ。自分のコミケット練度や目的に合わせて来場時間を調整するという考え方が浸透してきたのは大変良い傾向と言えるだろう。そこで今回はそれを『荷物』という側面から考えてみよう。

大荷物はコミケット参加者の宿命とも言えるが、それを持ち歩く体力だって決して無限ではない。なるべく荷物を軽量コンパクトにすれば、会場内の混雑緩和にも多少貢献する……かもしれない。

——■重量より、バランスが重要■——

なにしろコミケットの1日を快適に過ごすためには、多くの参加者は普段の日とは比べ物にならないくらい多くの荷物を持参する必要がある。その上、会場では長時間立ちっぱなし、歩きっぱなしの上、当然購入した同人誌やグッズが増えていく（その量は未知数だ）わけで、当然足腰にかかる負担もまた、普段の生活とは比べ物にならない。普段の生活で重い荷物を持ち慣れなかったり、長時間歩くことをしていない人であれば尚更だ。

コミケットというお祭りの高揚感は一時疲れを忘れさせてはくれるが、だからといって疲労そのものが消えるわけではない。夕方くらいにはどっしりと疲労と荷物がのしかかってくる。

帰宅時まで体力を維持するためには、荷持というファクタにも工夫が必要というわけだ。

●何を、どう持つか？

戦利品も装備品も貴重品も全部同じバッグに入れておくのはあまり得策ではない。この記事では、コミケットの参加装備は分散してなるべく体に身につけるように持ち歩くことを推奨している。

荷重が肩や手など体の一点に全てかかる荷物の運び方を続けると体力の消耗が大きいことから、荷物を分割することで荷重も分散させるという目的の他に、貴重品と消耗品や出し入れを頻繁に行う物を分けることで、会場の片隅でいちいちカバンの中身を出したり入れたり荷物整理をして貴重品を落としたり、盗難に遭ったりというリスクを回避する目的もあるためだ。

また、戦利品だけを分けて収納しておけば、会場内外から戦利品だけ宅配で自宅に送ってしまうようなことも簡単にできる。

最も重くなる戦利品のバッグは、手提げ袋型よりも肩や背中に掛ける運び方で、バッグ類のストラップを短めにしてバッグ本体をなるべく高い位置で体に密着させるようにすると最も身体への負担が小さくなるので試してみてほしい。

また、手提げや肩かけのバッグも、手や体に当たる部分には何らかの保護材を巻くとよい。グリップやストラップクッションなどの商品を事前に購入して用意しておけば万全だ。

●要らない物は、持たない。

何を持って行くかと同じか、それ以上に、何を持って行かないか、ということも大切な選択である。自分が参加する時間帯の気温や天候、会場滞在時間、回る予定のサークル数や場所、大手か否かなどの情報を事前に確認し、不要な持ち物を一つ一つ省いていくことで荷物を極力コンパクト化する。地道な作業ではあるが、効果は大きい。

ただ、現在のネット社会において、携帯電話やスマホの電池切れだけは絶対に避けたい事態だ。イベントの際は普段より電池消費が大きくなりがちでもあるので、予備バッテリーだけは、可能なら複数個用意すること、万一それでも電池切れを起こした場合の連絡手段だけは絶対に用意しておこう。



冬コミ用持物リスト Comi-Navi.comの『過去の記事など』コーナーより。

以前の記事に掲載した推奨持物リスト(PDF)です。自分の参加スタイルに合わせて適宜追加・除外して最適化して下さい。



http://www.comi-navi.com/contents/pdf/bring_list_winter.pdf